

一般貨物自動車運送業における分類不能を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	9~10	少し右足の大腿部周辺に痛みを感じたため、特に業務に支障をきたす事はなく仕事を続けていた。しかし、そのあと体が動かなくなり、右大腿部頸部骨折と診断され、観血的整復固定術と2週間の入院加療が必要になった。	25	100~299
3	7~8	積荷の一部をフォークリフトにて荷卸し後、再度車両に乗車しホームへ接車しようとしたが途中で停止した。動き出す様子が見られなかったため、様子がおかしいと感じた同僚が運転席でぐったりしている労働者を発見し、車両より降ろし、すぐに救急車を要請した。	47	50~99
3	16~17	事務所横倉庫内で、眼鏡を直しているところを発見する。鼻血が出ていたので問いかけたが「わからない」と答え、再三質問したが受け答え出来ず、会話も不能であった。頭部静脈が裂け内出血をしており、外傷も打撲痕らしきものがあったので、社内倉庫で何かの作業中に転倒したものと思われる。	52	10~29
3	7~8	配送業務研修指導のため、運転手の横乗りで業務遂行中、頭痛がして具合が悪くなったため、トラックの助手席にて仮眠をとりながら事業所へ戻り、そのまま寝かせていたが様子がおかしいことから救急搬送した。	48	—
5	16~17	積み込み作業中、普段と違う言動が見られたため救急搬送された。（原因不明）	65	1~9
7	14~15	トラック走行中、3車線道路の第2車線（真中）を走行中、急に心肺停止状態になり右折ラインに停止していたバスに追突した。・15時41分・・・医師が死亡を確認した時・14時58分（直前）・・・心肺停止した時・家族には虚血性心疾患と言われた。	39	50~99

7	16～ 17	引取り品の積み込み作業を完了後、体調の異常に気付き、工場の作業員に休憩の要請し、休憩室で待機中に意識がなくなり倒れ、救急搬送された。	37	50 ～ 99
10	10～ 11	2t冷凍車で配達途中の荷卸しの時に頭を強打したが、気づかずに次の配達先へ行く途中に頭が痛いのでさわると手に血がつく。どうしたのか記憶がなくいつもより2時間遅く帰って来た。頭蓋骨骨折・急性硬膜外血腫・外傷性くも膜下出血と診断された。本人の記憶が定かでないが、配送中に転倒したと思われる。	58	30 ～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html